

よつば通信



令和元年5月21日
魚津市立よつば小学校
5月号

URL www.yotsuba-e.tym.ed.jp

あっという間に10連休が終わり、5月も終盤を迎えました。17日(金)に開催された市小学校体育大会では、5・6年生一人一人が一生懸命に励んできた練習の成果を発揮しようと真剣に競技する姿が印象的でした。開会式では市内の児童を代表して、南翔也さんが堂々と選手宣誓を行いました。選手種目の競技では、400m男子リレーチーム(尾崎永和さん、高森はるさん、高瀬煌己さん、岡本駿貴さん)が大会新記録で優勝し、女子走り高跳びでは、山本なるみさんが大会タイ記録で優勝、高森はるさんが800m走と走り幅跳びで優勝、他の選手も多くの種目で入賞し、見事な活躍ぶりでした。なかには転倒したり、緊張して十分に力を発揮できなかったりした子もいるかもしれませんが、それもよい経験として今後に生かしてほしいと思います。

さて、一学期も折り返し地点です。まだまだいろいろな行事もありますが、地に足を付けて、落ち着いた雰囲気の中でしっかりと学習に取り組むことができるよう、努めていきたいと思っています。

プログラミング教育について

令和2年(2020年)度から全面実施される新しい学習指導要領について、本通信4月号に記したところ、「プログラミング教育」に関してもう少し詳しく教えてほしいというご意見をいただきましたので、今回も概要を「Q&A」の形でお知らせします。



Q1 プログラミング教育のねらいって何?

A1 社会人に欠かせない基礎的な素養となりつつある「IT(information technology)力」を子供の頃から育成することにあります。

Q2 教科が増えるの?

A2 「プログラミング」という教科が作られるわけではありません。全学年において、国語や算数、理科、総合的な学習の時間など、すでにある教科の中で実践されます。

Q3 何をどうやって学ぶの?

- A3 ①物事には手順があり、手順を踏むと、物事をうまく解決できるといった、論理的に考えていく「プログラミング的思考」力を育てます。
②情報社会がコンピュータ等の情報技術によって支えられていることやITを活用して身近な問題を解決したりよりよい社会を築いたりしようとする態度を育てます。
③いつもパソコンやタブレットを使い、難しいプログラミング言語を打ち込む学習をするわけではなく、普段の学習活動の中で考え方を学びます。もちろんパソコンやタブレットなどのICT機器を使った授業も想定されていますが、プログラミングの技能習得自体が目的ではありません。

※ AI(人工知能)の発達により、子供たちはこれから先どんな世の中になるかの見通しが難しい時代を生きることになります。プログラミング的思考は、そんな社会で生き抜くために、時代を超えて普遍的に必要な力だと考えられています。

<家庭訪問について>

今年度、家庭訪問を希望制に変更し、希望調査を行ったところ、各学級10名足らずの希望者に落ち着きました。保護者の方からは「本当に希望しなくてよかったのでしょうか。」「仕事を休まなくて済むので助かります。」といった声をお聞きしています。

学校としては3日間の日程が2日間になったことや希望日時の調整に頭を悩ますことなく実施できることなど、授業時数の確保とともに学級担任が短時間に校区を慌ただしく巡る状況が解消され、大変有り難く思っています。しかしながら、お子さんの健全育成のためにご家庭との連携は非常に重要です。家庭訪問を実施しなかったために連携が図れなかったということにならないよう、保護者のみなさんと必要に応じて連絡を取り合いながら、お子さんの健やかな成長を支えていきたいと思っています。